

# 人文科学研究所 研究報告会

日時：2022年11月26日（土） 13：00～15：20

※聴講自由

会場：板橋校舎2号館2階2-0220会議室 オンライン（Zoom併用）開催

Zoom参加を希望される方は、①所属、②氏名、③メールアドレスをご記入の上、人文科学研究所（jinbunken@ic.daito.ac.jp）まで申し込みください。後日招待リンクをお送りいたします。

## ◆所長挨拶

### ◆報告1 13：05～13：35

題目：総合的な学習の時間における地域との連携

：社会教育施設を活用した特別支援学級との交流及び共同学習

報告者：田尻敦子／グローバルな学びの変遷（代表：田尻敦子）

総合的な学習の時間では、地域と連携し、探究的な学びをデザインすることが教員に求められている。赴任したばかりの若手教員であっても、地域との関係を築く方法はあるのだろうか。この問いを探究する過程で、地域における学びの場である社会教育施設と連携した特別支援学級との交流及び共同学習に焦点を当てる。

### ◆報告2 13：40～14：10

題目：『論語』「道」字の唐詩における詩語使用について

報告者：鈴木拓也／東アジアの美学史研究班（代表：河内利治）

『論語』に記された「善道（道を善くす）」「貴道（道を貴ぶ）」「謀道（道を謀る）」「達道（道を達す）」「憂道（道を憂う）」という孔子の言葉が、唐代の詩人によってどのように「詩語」として表現されたのか、その変化や展開の一端を明らかにする。

### ◆報告3 14：15～14：45

題目：三島由紀夫と安部公房、アダプテーションの特徴

報告者：木村陽子／日本文学における歴史的事象の研究班（代表：美留町義雄）

日本文学に脈々と流れる伝統に〈アダプテーション〉がある。本報告では、小説だけでなく他のメディア（演劇、映画、ラジオ、テレビ）も活用し、各メディア特性を活かした創作活動を行った〈アダプテーション〉作家の代表として安部公房と三島由紀夫を取り上げ、それぞれの特徴を分析した近時の研究について報告する。

### ◆報告4 14：50～15：20

題目：『嵯峨本伊勢物語』挿絵考

報告者：徳植俊之／古典文学の享受に関する文献学的研究班（代表：徳植俊之）

『嵯峨本伊勢物語』には、四十九の挿絵がある。その中の第二段の後におかれた第二図は、初段後半の話に絵にしたものであるとされ、嵯峨本の影響を受けた近世出版の絵入本版本にも、同様の解釈が見られる。しかしこれは、第二段の物語を絵画化したものと考えらるべきであることを、画中の人物の描き方等から明らかにしたい。

主催：文学部事務室・人文科学研究所